

## 第3回福知山市行政改革推進委員会 議事録

日時:令和6年10月29日(火)  
午前10時00分から  
場所:市民交流プラザ4-1

### ■ 出席者

【委員（敬称略）】

井上 拓、浦尾 たか子、菊田 学美、深尾 昌峰、村尾 慎哉

※井上委員、浦尾委員、深尾委員、村尾委員はオンライン参加

【市】

市長公室長、市長公室次長、経営戦略課長、財政課長、経営戦略課、職員課、大学政策課、資産活用課、デジタル政策推進課、農林業振興課、都市・交通課、文化・スポーツ振興課

### 1 報告事項

(1) 令和6年度施策レビューの総括について

- ・令和6年度施策レビュー(二次レビュー)について・・・【資料1】
- ・令和6年度施策レビュー(二次レビュー)アンケート結果(市民パートナー)【資料2-1】
- ・令和6年度施策レビュー(二次レビュー)アンケート結果(傍聴者)・・・【資料2-2】
- ・令和6年度施策レビュー(二次レビュー)改善提案等への対応方針・・・【資料3】

#### 委員

二次レビューに参加させていただき、子育てと防災の3施策に入った。感謝申し上げる。子育て・防災のテーマは日々の暮らしに直結するテーマで、昨年度よりも時間配分や進め方も工夫をいただき、事業の説明も具体的であったことから、より分かりやすく市民の方々に取組を伝えるという点では良かったと感じる。

今取り組まれている事業についても、必要性、有効性、共に総じて高い評価をいただいたと感じる。一方で、改善点として庁内全体の横のつながりについて、継続している事業は縦割り・硬直的になりがちであるとの指摘があったように感じる。より一層、課題解決思考を市民目線で、組織の壁のない進め方や取組を推進していただきたい。

また、昨年に引き続き、周知、情報発信、広報に関して、市役所全体の課題とも考えうるが、アンケート結果からも傍聴が少ないとの意見もあった。素晴らしい取組をしているからこそ、必要な人に必要な情報を届けることは、全庁的に全力を挙げて工夫が必要であると改めて感じた。

#### 委員

二次レビューは効果的であったと感じる。資料1の概要に記載があるとおおり、市民及び外部の視点を入れて熟議を行うことや、市職員の政策形成能力の向上を図るという目的は達成されていると考えるが、一番重要なのは「まちづくり構想 福知山」に掲げる「施策」を着実に推進し、より実効性のあるものにするための「二次レビュー」であることが基本であるため、二次レビューを行うことが目的とならないよう、二次レビューの結果が「まちづくり構想 福知山」の構想に近づいていることと分かる展開のフォローが必要であると考えます。

市

本御意見について事務局としても重要視している。「二次レビュー」後にレビューを受けた部署と議論を行い、施策改善推進委員及び市民パートナーの意見をどう改善に繋げるかについて、広報や周知も含めて意見を反映し進めているところである。予算編成についても、レビューの意見を踏まえて検討を進めたい。

## (2) 行政改革大綱 2022—2026 進捗状況について

- ・行政改革大綱 2022-2026 令和 5 年度進捗状況一覧・・・【資料 4】

委員

現場の状況について補足をいただきたい。デジタル政策推進課からあった、取組項目 6 の「業務フローの見直し及び標準化」について、自治体 DX は全国的にも課題であり、解決が難しいところであると考えている。人や意識の問題であり、DX を進める上では欠かせない重要なテーマと感じている。その中で、今後の取組として、部長・課長のリーダーシップによって、業務の見直し提案を増やし、目標達成に向けて取り組むとの説明があったが、現場や部長・課長の反応、前向きな取組や、兆しのある部・課の事例があれば教えていただきたい。

市

業務見直しに利用できるデジタルツールの説明会を開催しているが、キントーン講習会や RPA・オンライン申請システムの講習を全庁的に周知する中で、参加者が増加傾向にある。また、参加者のなかには管理職の参加もあり、理事者や部長からの情報発信による効果であると実感している。また、BPR の提案を各課の係単位で募集した中で、提案の実装に向け案件を見える化し進捗管理を行っていく。経営戦略課と共に推進体制を構築し、プッシュ型で各課へヒアリングをかけて進めていきたい。

## (3) 外郭団体三次評価について

- ・外郭団体三次評価結果について・・・【資料 5-1】
- ・外郭団体まとめシート・・・【資料 5-2】

委員

外郭団体の取組は、数年に渡って実施していることから、ずいぶん担当部署も団体の認識も変わってきていると感じている。一番の根本である、市が団体に何を求めているのか浸透していないように感じた。各団体と市と市民の関係性は長年に渡り培われてきたことから、その認識を変えることは難しいと考えるが、だからこそ今一度見直しを行い、市が各団体にどのように活動してもらうことで、市の施策を実現できるのかといった考え方を、精査すべきではないかと感じた。

## 2 議事

次年度に向けた施策レビューの取組について

- ・令和 7 年度施策レビュー(二次レビュー)の方向性について・・・【資料 6】
- ・令和 4~6 年度施策レビュー(二次レビュー)対象施策一覧・・・【資料 7】
- ・令和 7 年度施策レビューに向けたヒアリング・・・【資料 8】

#### 委員

本日の議論は何か決定するというのではなく、率直な意見を伺い、次回の委員会で再び議論したいと考えているため、忌憚ない意見を募集する。

#### 委員

当日の進行について、今回、二日間に渡って「二次レビュー」を実施し、テーマとして子育て・防災・地域包括ケアをテーマに実施された。コーディネーターのコメントにもあったとおり、二日間実施することで、議論のつながりの面で、1日・半日だけの参加であると聞く方も議論する方も難しさを感じた。前日の議論の背景を踏まえれば、議論へのコメント、質問ができたが、議論の運びで繰り返しの説明部分が否めなかったと感じたことから、来年度は対象施策や日程を組む際は、できれば関連が強い施策や同じ基本政策に紐づく施策は、1日の通して議論ができれば良いと感じた。

もう一点、レビューの進め方について、今年度の二次レビューは、前半に大きな施策から事業の具体的な説明の流れと、後半は逆転させて、事業の具体的な説明の後に大きな施策の有効性を議論した。両方を体験した中で、後半に実施した具体的な事業の説明で理解を深めた上で、大きな施策の有効性の流れについて議論する方が進めやすかったことから、来年度の検討の中で取り入れていただければと思う。

#### 委員

アンケート結果や資料6に、市民パートナーが発言する機会が少なかったとあった。市民パートナーの意見をどう取り上げるべきか、本委員会の中でも課題となっていたが、闇雲に市民パートナーに意見を求めるのではなく、事前に市民パートナーに資料の説明や施策レビューの目的などを説明した上で、施策改善に結びつくような意見が求められるような仕組みづくりを行い、市民パートナーの意見を聞く流れが効果的ではないかと考える。

#### 委員

各担当課の二次レビュー後の取組内容や改善報告、実施状況や効果がどうなっているかについて、短期間では効果を実感できないかもしれないが、二次レビューをする中での大枠の定義の中で報告や総括を行うべきではないかと考える。

また、二次レビューは土日開催であるが、市民パートナーや傍聴者の参加のしやすさを考慮して土日開催をしていると思うが、働き方改革が進められる中で、市職員の参加も多数あったことから、平日開催と土日開催で、二次レビューの効果に差があるのか、評価が必要ではないか。

#### 市

1点目について、二次レビューを受けた各担当課とレビューでの意見を踏まえた施策の改善効果について協議を行い、施策改善推進委員や市民パートナーの意見も踏まえて今後どう進めていくのか総括を行っているところであり、二次レビューを実施して完了というわけではない。これから来年度の施策をどうすべきかの検討や、予算についてもあらためて改善効果を報告していきたい。

2点目について、二次レビューの実施曜日については、市民参加をいただくことを目的に土日開催としているが、一方で働き方改革としている中で多数の職員が参加している現状がある。改善案として、平日に実施するまでは言い切れない。説明者として職員が多数参加している要因として、施策に紐づく全ての関係部署の職員が参加しているためである。発言は施策の主た

る部署にとどまったことも踏まえ、事前準備や論点整理の段階で出席する部署についてもある程度絞っていききたいと考えている。

委員

土日に開催するメリットは、市民に広く参加を促すことと思うが、その割には傍聴者が少なく、土日開催であれば傍聴者がより参加しやすい仕組みを検討すべきではないか。

市

事務局としても課題と考えている。傍聴者の参加も一般の市民は少なく、市職員の割合が多い。来年度は傍聴者の参加を増やす仕組みを考えたい。

委員

職員以外の傍聴者は何人か。

市

アンケート結果で傍聴者は43名としているが、一般の市民は4、5人程度である。

委員

ほとんどが市の職員であり、一般の市民の傍聴が少数であったということであった。

委員

令和7年度からは、次期「まちづくり構想 福知山」の策定期間にも移行すると思うが、基本は、市民と共に考えていくことと理解していることから、二次レビューで市民パートナーに参加いただく意義はあると考える。その上で、もっと職員は二次レビューの傍聴をされても良いのではないかと考える。報告(2)にもあった、行政改革大綱2022-2026進捗状況の職員課の説明にあった、市民対応は月平均2回という結果や、担当職員の熱意や悩みを感じることで、事業や施策を身近に感じたという感想もあったため、二次レビューの機会で他部署の職員が傍聴することで、他部署の取組を知るきっかけになると考えることから、職員の中でも傍聴参加を広げてはどうか。

また、質問になるが、【資料6】「3 令和7年度の方向性について」(3)について、施策レビューの目的を着実に具現化するため、個々の施策を熟議することに重点を置いた運営方法とするとあるが、具体的な運営方法のアイデアはあるか。

市

職員にも傍聴参加を周知していきたい。

また、施策について、施策レビューの目的を着実に具現化するため、個々の施策を熟議することに重点を置いた運営方法とすることについて、時間配分を昨年度より延ばしたことで熟議できたと考えているため、今年度の結果を考慮し検討をしていきたい。運営方法は、今年度実施した議論の順番を、事業を先に議論し、施策の有効性について議論を進めることで、今回は現場職員の生の声をお伝え出来たと考えている。できていること、できていないことを含め、悩みや課題の思いを伝える場面が多かったことで、市民の皆さんに事業の取組を理解していただいた中で、熟議することに繋がったと考えるため、職員の二次レビューへの臨み方も含めて運営を進めていきたい。

**委員**

施策レビューの評価結果はホームページで掲示されているが、市民の傍聴者の増加にもつながる観点で、当日の様子や結果報告など福知山市の広報誌やメディア等でお知らせできているか。

**市**

現時点では、6 施策の評価結果の公表に留まっている。今進めている総括を踏まえて、改善の方向性についても公表していきたい。

**委員**

今後、検討、対応されることで理解した。質問した背景として、市民からして施策レビューがどのようなものであるかわからない、存在自体を知らない方は多いと考える。行政の取組はどうしても伝わりづらいことや自分とは関係ないと捉えられている方もいると思う。議論が活発に行われている場があることや、市民パートナーになれば自分の意見を発信できる場があることを知っていただくことも、傍聴者を増加させるには重要であると考えている。時間と職員のリソースを使って実施しているのであれば、有用なコンテンツになりうると考えるため、是非、市の取組として何回も様々な場面で発信してはどうかと考える。その中で、予算が確定したときに、市民に発信する場もあると思うが、この取組は施策レビューの取組で始まった事業であること等が添えられると、施策レビューを知るきっかけにも繋がると思う。大きな取組や枠組みなどでこの施策レビューが有用なことであることや、「まちづくり構想 福知山」に寄与している取組であることを、一歩ずつ着実に市民の方に知っていただく取組を進めていただきたい。

**委員**

本日の意見は次回の委員会で改めて確認及びブラッシュアップに繋げていただきたい。